

## 1. 所得格差

- ・ 所得のジニ係数 . . . . . 2
- ・ 所得分布 . . . . . 3
- ・ 相対的貧困率 . . . . . 4

## 2. 資産格差（資産のジニ係数，資産分布） . . . . . 5

## 3. 地域間（国別）格差（一人当たりGDP） . . . . . 6

## 4. 格差感

- ・ 公平，格差に関する世論調査 . . . . . 7
- ・ 欧州の将来に関する世論調査 . . . . . 8, 9

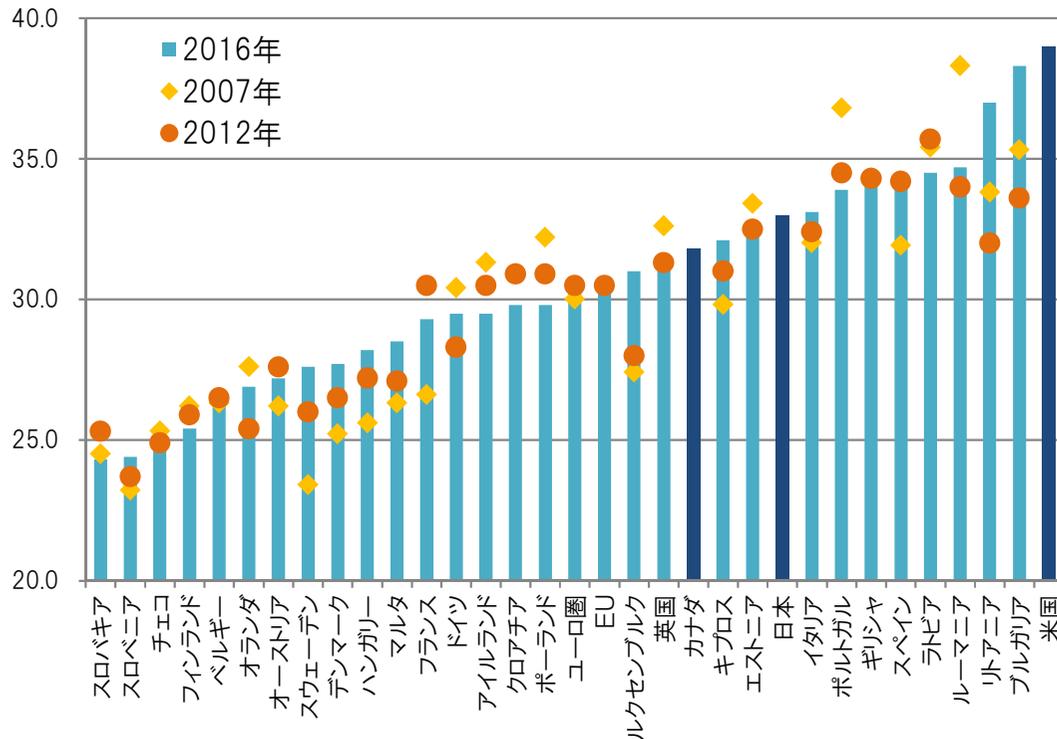
# 1. 所得格差①：ジニ係数 (社会全体の格差を測る指標。0～100(もしくは0～1)の値を取り、値が大きいほど格差が大きいことを表す)

○EU諸国の所得のジニ係数は日本と比べて総じて低め(所得格差は相対的に小さい)。その中でも比較的高いのは東欧、南欧諸国(それでも米国より低い水準)。

○時系列で見た所得のジニ係数の動向(2012～2016年(現在のEUの景気回復局面))は、ユーロ圏及びEU全体ではそれぞれ+0.2pt, +0.3ptの上昇。

○国ごとの動向はまちまちだが、例えば近年選挙が行われた国々の所得のジニ係数を見ると、オランダ、ドイツ、ハンガリー、イタリアでは拡大している一方、フランス、オーストリアでは縮小している。

所得のジニ係数の各国比較



(出典) 欧州委員会, ただし日本, 米国, カナダはOECD

(注) 日本は2012年, 米国, カナダは2015年の値。クロアチア及びEUについては2007年の値が非公表。

所得のジニ係数の動向(2012～2016年)

	拡大した国	縮小した国
1	リトアニア(+5.0pt)	フランス, ラトビア(-1.2pt)
2	ブルガリア(+4.7pt)	ポーランド, クロアチア(-1.1pt)
3	ルクセンブルク(+3.0pt)	アイルランド, スロバキア(-1.0pt)
4	スウェーデン(+1.6pt)	ポルトガル(-0.6pt)
5	オランダ(+1.5pt)	フィンランド(-0.5pt)
6	マルタ(+1.4pt)	オーストリア(-0.4pt)
7	ドイツ, デンマーク(+1.2pt)	ベルギー(-0.2pt)
8	キプロス(+1.1pt)	—
9	ハンガリー(+1.0pt)	—
10	イタリア, ルーマニア, スロベニア(+0.7pt)	—

# 1. 所得格差②：所得分布

○所得分布を見ることで、ジニ係数と各所得階級の関係を確認すると(2012～2016年),

- (1) ジニ係数の拡大が相対的に大きな国(例えばオランダ, ドイツ, ハンガリー): 低所得階級及び一部の中所得階級の所得シェアが縮小し, 高所得階級の所得シェアが拡大している傾向
- (2) ジニ係数の拡大が相対的に小さな国(例えばイタリア, 英国): 低所得階級の所得シェアが縮小し, 中所得階級の所得シェアが拡大している傾向
- (3) ジニ係数が縮小している国(例えばオーストリア, フランス): 低所得階級及び中所得階級の所得シェアが増大し, 高所得階級の所得シェアが縮小している傾向

○所得格差拡大国の共通点は, 低所得階級の弱まり(＝貧困問題の悪化)。さらに, 所得格差の拡大が大きい国では, 所得シェア縮小が中所得階級にも及んでおり, 社会全体の格差拡大が意識されやすい可能性。

EU及び加盟国における所得分布

(単位:%)

所得階級	EU			ユーロ圏			オランダ			ドイツ			ハンガリー		
	2007	2012	2016	2007	2012	2016	2007	2012	2016	2007	2012	2016	2007	2012	2016
低所得… 第1五分位	—	7.9 ↓ 7.7	8.1	7.9 ↓ 7.7	9.3	9.8 ↓ 9.2	7.8	8.6 ↓ 8.2	9.6	9.1 ↓ 8.6					
中所得	第2五分位	—	13.3 ↓ 13.2	13.4	13.3	13.3	14.1	14.6 ↓ 14.1	13.7	13.7 ↓ 13.5	14.6	14.1 ↓ 13.9			
	第3五分位	—	17.5 ↑ 17.6	17.5	17.5 ↑ 17.6	17.6	18.0 ↓ 17.9	17.5	17.8 ↓ 17.7	18.0	17.9 ↓ 17.8				
高所得…	第4五分位	—	22.8 ↑ 22.9	22.7	22.8 ↑ 22.9	22.0	22.4 ↑ 22.6	22.5	22.9 ↓ 22.8	22.5	22.5 ↑ 22.9				
	第5五分位	—	38.5	38.5	38.3	38.5 ↑ 38.6	37.0	35.3 ↑ 36.1	38.5	36.9 ↑ 37.8	35.3	36.4 ↑ 36.9			

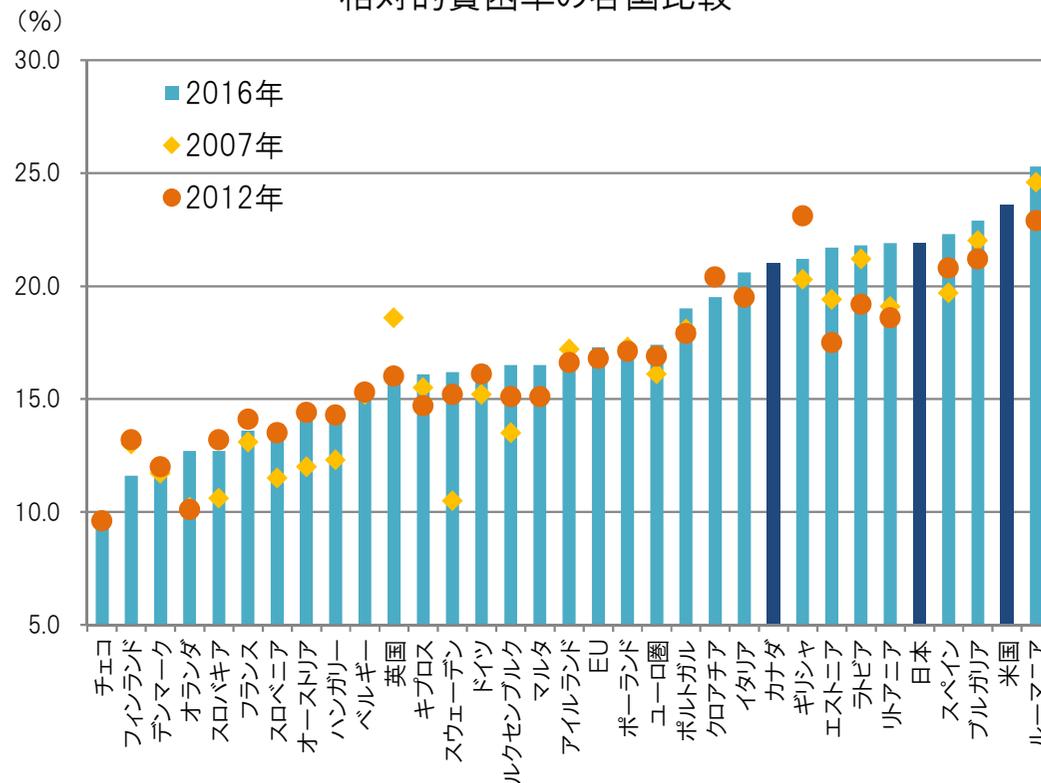
所得階級	イタリア			英国			オーストリア			フランス		
	2007	2012	2016	2007	2012	2016	2007	2012	2016	2007	2012	2016
低所得… 第1五分位	7.3	7.0 ↓ 6.3	7.6	7.9 ↓ 7.7	9.5	8.7 ↑ 8.8	9.3	8.7 ↑ 8.9				
中所得	第2五分位	12.8	12.9 ↓ 12.8	12.6	13.0	13.0	14.4	14.1 ↑ 14.2	14.2	13.3 ↑ 13.7		
	第3五分位	17.5	17.5 ↑ 17.9	17.0	17.2	17.2	17.9	18.0 ↑ 18.2	17.9	16.9 ↑ 17.2		
高所得…	第4五分位	23.1	22.9 ↑ 23.5	22.5	22.7 ↑ 22.9	22.3	22.7 ↑ 22.8	22.5	21.6	21.6		
	第5五分位	39.4	39.6 ↓ 39.5	40.3	39.2	39.2	35.9	36.5 ↓ 36.0	36.2	39.5 ↓ 38.5		

(出典) 欧州委員会  
 (注) 所得階級の五分位とは, 所得の多寡に応じて当該国・地域の国民を20%ずつ5グループに分けたもの。各計数はそれぞれの五分位が当該国・地域の所得総額の何%をシェアしているかを示している。

# 1. 所得格差③：相対的貧困率 (一人当たり所得が国民全体の中央値の一定割合(EUの基準は60%)を下回る人口の比率)

- ジニ係数と同様，EU諸国の相対的貧困率は日本と比べて総じて低め。その中でも比較的高いのは東欧，南欧諸国。割合としては国ごとに10～25%と幅があるが，概ね前頁の所得第一五分位の範囲内に相当。
- 時系列で見た相対的貧困率の動向は国ごとにまちまちだが，ユーロ圏及びEU全体について2012年比で見ると，いずれも+0.5%ptの上昇。

相対的貧困率の各国比較



(出典) 欧州委員会，ただし日本，米国，カナダはOECD  
 (注) 日本は2012年，米国，カナダは2015年の値。クロアチア及びEUについては2007年の値が非公表。

各国の貧困線(2016年)

国名	ユーロ	国名	ユーロ
1. ルクセンブルク	20,291	15. マルタ	8,143
2. デンマーク	17,199	16. スロベニア	7,396
3. スウェーデン	15,098	17. ポルトガル	5,269
4. オーストリア	14,217	18. エストニア	5,187
5. フィンランド	14,190	19. チェコ	4,703
6. オランダ	13,640	20. ギリシャ	4,500
7. アイルランド	13,444	21. スロバキア	4,171
8. ベルギー	13,377	22. ラトビア	3,819
9. フランス	13,028	23. ポーランド	3,530
10. ドイツ	12,765	24. クロアチア	3,435
11. 英国	12,682	25. リトアニア	3,387
12. イタリア	9,748	26. ハンガリー	2,861
13. キプロス	8,412	27. ブルガリア	1,891
14. スペイン	8,209	28. ルーマニア	1,469

(出典) 欧州委員会  
 (注) 貧困線とは，相対的貧困の基準となる所得水準のこと。一人当たり所得がこれを下回る者の割合が相対的貧困率となる。国ごとに経済水準が異なるため，貧困線も国ごとに異なる。

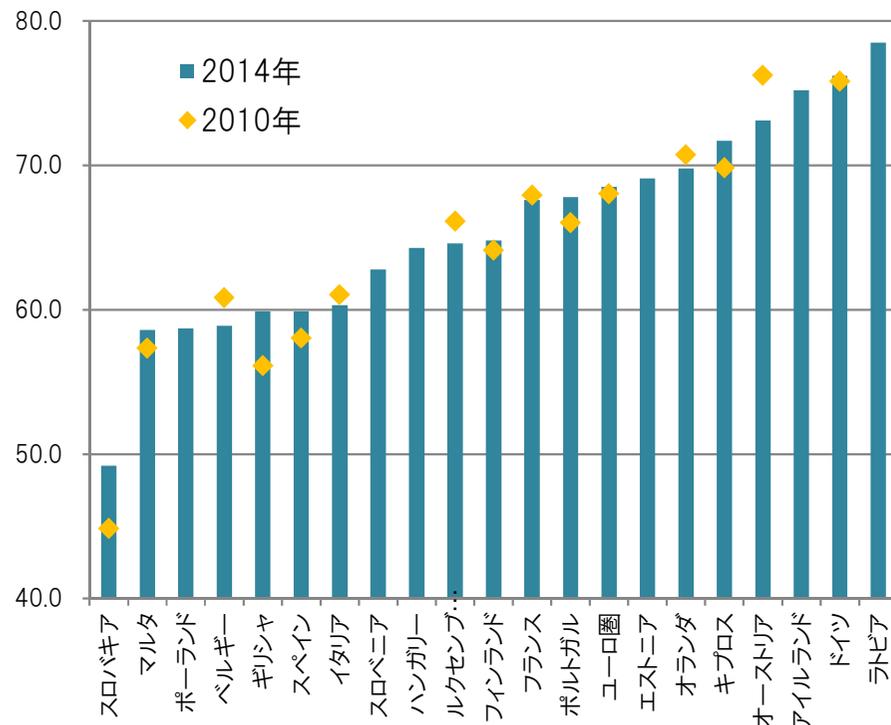
## 2. 資産格差：ジニ係数と資産分布

○EU諸国の資産のジニ係数は、所得のジニ係数と異なり、概して南欧・東欧諸国が相対的に小さく、ドイツやオランダといった比較的経済の堅調な国において大きい。

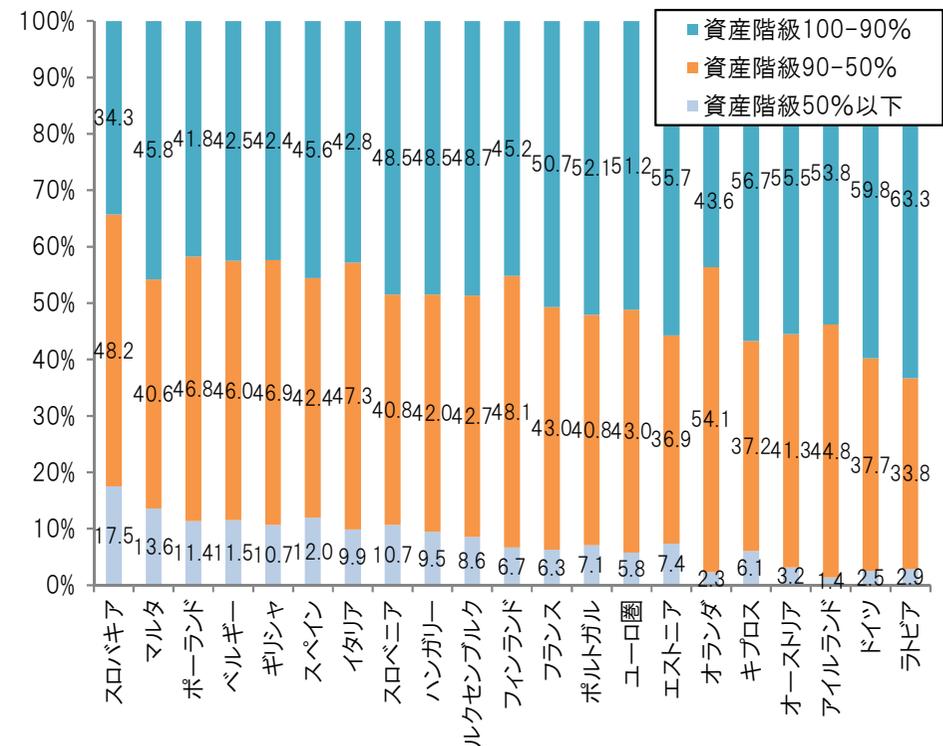
○時系列で見た資産のジニ係数の動向(概ね2010～2014年)は国ごとにまちまちだが、ユーロ圏では+0.5ptの上昇。

○資産分布を見ると、資産階級上位10%の資産シェアは、日本の41%に対して、EU諸国は全体的に高めとなっている。所得格差と異なり、EUの資産格差は比較的大きいと考えられる。

資産のジニ係数の各国比較



資産分布の各国比較(2014年)



(出典) 欧州中央銀行

(注1) 2010年の値について、フランス、ギリシャ、スペインは2009年、オーストリア、ドイツ、イタリア、ルクセンブルクは2011年の値。また、2014年の値について、エストニア、アイルランド、ポルトガルは2013年、オランダは2015年の値。

(注2) 右図は、資産の多寡に応じて当該国・地域の世帯を3つのグループに分けている。「資産階級100-90%」が資産を最も多く保有している上位10%の世帯を示しており、「資産階級90-50%」がそれに続いて多く資産を保有している40%の世帯を、「資産階級50%以下」が資産の保有額が最も少ない下位50%を示している。各計数はそれぞれのグループが当該国・地域の資産総額の何%をシェアしているかを示している。

(参考) 上記以外の国の資産階級100-90%の資産シェア

- ・日本41.0%(2014年)
- ・米国79.5%(2016年)
- ・デンマーク64.0%(2015年)
- ・英国52.5%(2015年)

(出典) OECD

### 3. 地域間（国別）格差：一人当たりGDP （当該国国民の平均的な所得水準（豊かさ）を示す）

○一人当たりGDPの「水準」は、加盟国間で大きな差が存在し、東欧諸国が相対的に低い。一方、一人当たりGDPの「伸び」は、むしろ東欧が高く、キャッチアップが進んでいる。

○現在のEUの景気回復局面に当たる2012～2017年にかけては、多くのEU諸国において、一人当たりGDPがEU平均に緩やかに収斂。他方、キプロス、ギリシャ、イタリアといった南欧諸国の一部における一人当たりGDPの伸び悩みも確認できる。

一人当たり名目GDP(2017年)

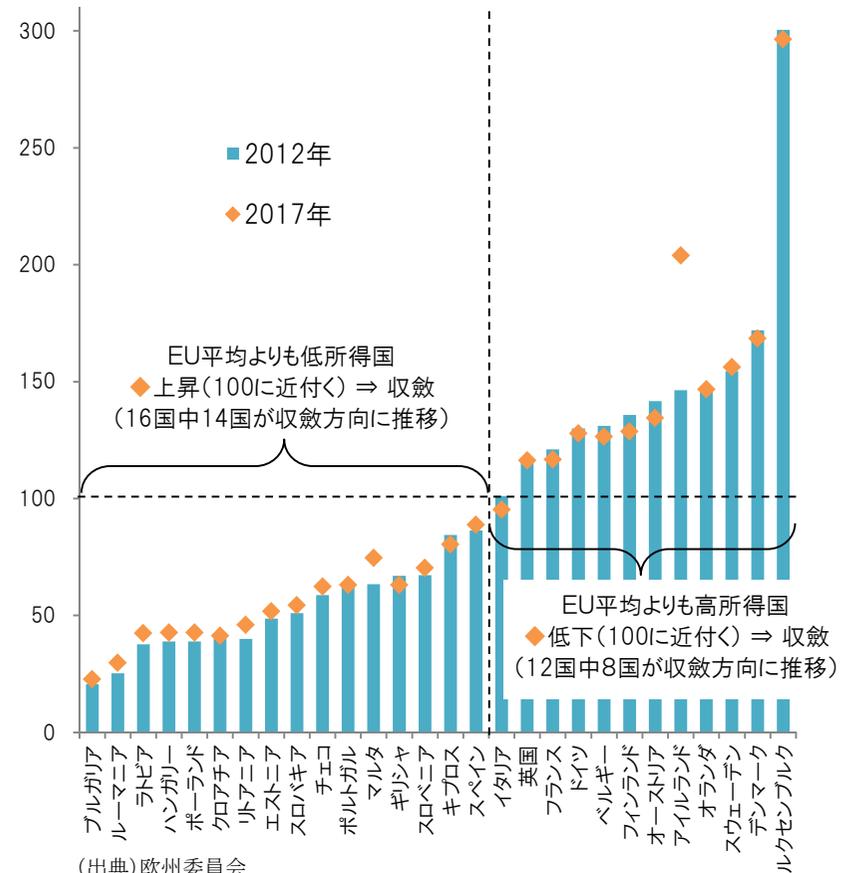
国名	ユーロ	国名	ユーロ	国名	ユーロ
1.ルクセンブルク	92,800	11.フランス	34,100	21.スロバキア	15,600
2.アイルランド	61,700	12.イタリア	28,400	22.リトアニア	14,800
3.デンマーク	50,000	13.スペイン	25,000	23.ラトビア	13,900
4.スウェーデン	47,400	14.マルタ	23,900	24.ハンガリー	12,600
5.オランダ	42,800	15.キプロス	22,400	25.ポーランド	12,100
6.オーストリア	42,000	16.スロベニア	21,000	26.クロアチア	11,700
7.フィンランド	40,600	17.ポルトガル	18,700	27.ルーマニア	9,600
8.ドイツ	39,500	18.チェコ	18,100	28.ブルガリア	7,100
9.ベルギー	38,500	19.エストニア	17,500		
10.英国	35,200	20.ギリシャ	16,600	EU平均	29,900

(出典) 欧州委員会

(注) ユーロ換算しているため、非ユーロ圏諸国については為替レートの影響が含まれていることに留意。

一人当たり実質GDPの収斂

(EU平均=100)

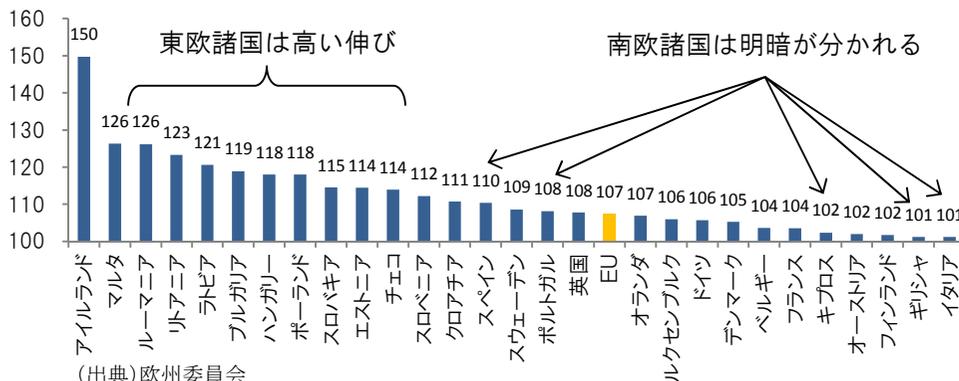


(出典) 欧州委員会

(注) 2012年と2017年について、EU平均を100として各国の水準を見たもの。

一人当たり実質GDPの伸び(2012～2017年)

(2012年=100)



(出典) 欧州委員会

(注) 国・地域ごとに2012年を100として2017年の水準を見たもの。

# 4. 格差感①：世論調査（公平，格差，世代間移動に関するユーロバロメーター特別調査）

○EUの公平，格差，世代間移動に関する世論調査(2018年4月)によれば，8割を超えるEU市民が，「自国の所得格差は過大である」，あるいは「自国政府は所得格差対策を講じるべき」と感じており，格差に対する問題意識は極めて高い。

<Q. 自国の所得格差は過大だと思いますか>

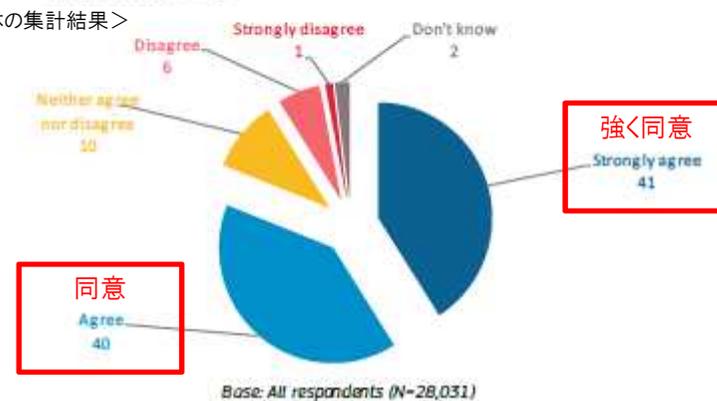
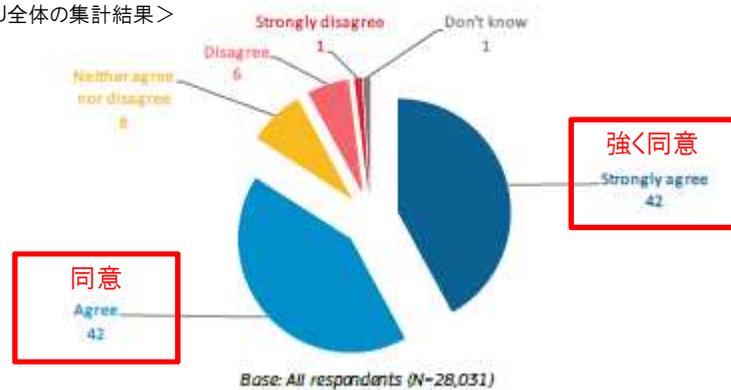
<Q. 自国政府は所得格差対策を講じるべきだと思いますか>

QA1.11 Please tell me to what extent you personally agree or disagree with the following statements.  
Nowadays in (OUR COUNTRY) differences in people's incomes are too great. (% - EU)

QA1.12 Please tell me to what extent you personally agree or disagree with the following statements.  
The government in (OUR COUNTRY) should take measures to reduce differences in income levels. (% - EU)

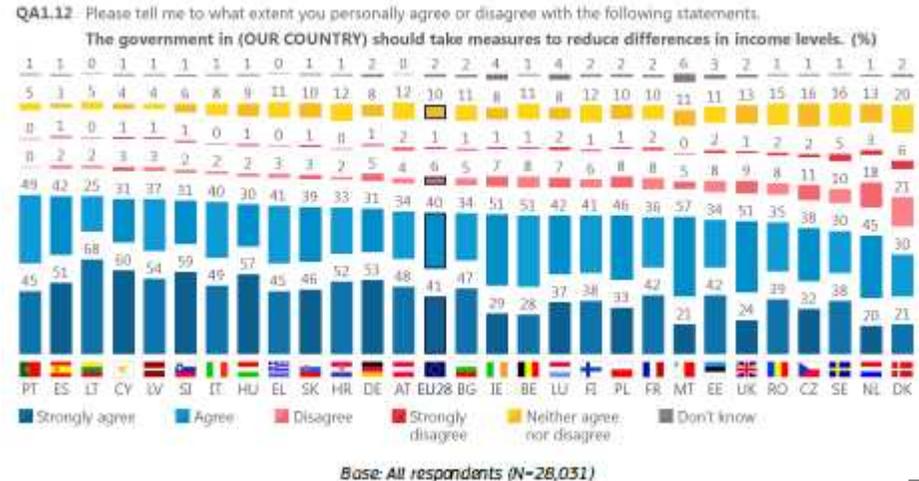
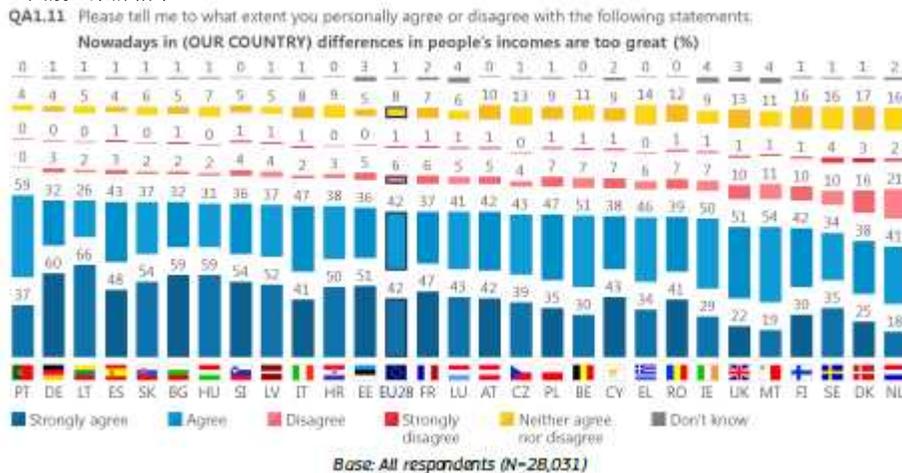
<EU全体の集計結果>

<EU全体の集計結果>



<国別の集計結果>

<国別の集計結果>



(出典) 欧州委員会「公平，格差，世代間移動に関するユーロバロメーター特別調査」(2018年4月公表)

## 4. 格差感②：世論調査（欧州の将来に関するユーロバロメーター特別調査）

○欧州の将来に関する世論調査(2017年11月)でも、EU全体では、「社会格差」は「失業」に次いで高い問題意識が持たれている。これは「移民問題」や「テロ・治安問題」よりも高い結果。

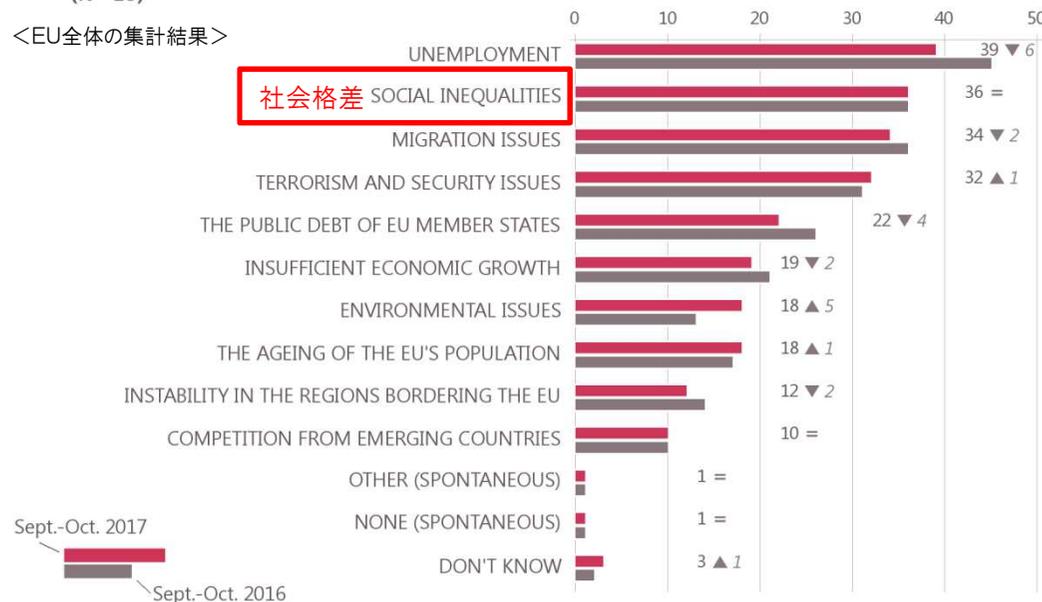
○2つの世論調査の国別の結果を、特定の経済的格差との関係で一義的に説明することは困難。所得・資産・地域間といった様々な格差や、貧困や格差の固定化といった問題、歴史的経緯など、複合的な要因によって格差感は形成。

○また、データが示すEUの実態からすれば、これらの結果には、EU市民による格差に対する過剰な反応先入観が加味されている可能性も考えられる。冷静な実態把握が重要。

＜Q. EUの主要な課題は次のうちのどれですか？（最大3つまで選択）＞

QC2 Which of the following do you think are the main challenges for the EU? (MAX. 3 ANSWERS)  
(% - EU)

＜EU全体の集計結果＞



＜国別の集計結果＞

QC2 Which of the following do you think are the main challenges for the EU? (MAX. 3 ANSWERS)  
(%)

	Unemployment	Social inequalities	Migration issues	Terrorism and security issues	The public debt of EU Member States	Insufficient economic growth	Environmental issues	The ageing of the EU's population	Instability in the regions bordering the EU	Competition from emerging countries
EU28	39	36	34	32	22	19	18	18	12	10
BE	39	39	31	27	22	16	24	24	8	12
BG	24	33	36	31	12	20	11	29	14	12
CZ	20	28	54	38	25	15	14	19	17	11
DK	21	40	39	40	14	7	30	15	28	9
DE	30	50	39	34	34	10	20	15	13	4
EE	27	32	52	41	8	17	9	42	16	6
IE	40	26	31	35	21	17	19	18	17	14
EL	64	36	39	20	31	38	7	17	8	16
ES	62	40	14	23	14	30	15	21	6	7
FR	49	41	30	30	23	19	21	18	9	16
HR	45	37	16	28	24	26	10	10	11	15
IT	49	22	37	30	18	29	17	9	9	16
CY	66	28	34	32	23	24	14	12	5	9
LV	50	47	30	29	9	31	12	20	11	3
LT	43	47	35	30	6	29	6	27	9	7
LU	41	40	27	24	24	14	25	18	10	12
HU	25	30	52	28	13	19	14	23	9	12
MT	28	16	60	48	12	9	11	26	14	6
NL	19	34	38	43	27	7	42	27	28	10
AT	44	39	44	20	37	19	21	13	17	16
PL	29	30	37	33	17	15	13	20	11	13
PT	57	54	13	31	25	26	8	24	7	8
RO	39	28	27	18	18	28	22	22	16	12
SI	45	38	33	23	17	17	14	38	8	9
SK	34	41	33	20	15	16	17	23	10	11
FI	36	36	21	45	29	13	22	28	21	8
SE	25	46	42	42	15	7	44	17	21	7
UK	27	24	37	41	20	16	12	16	15	7

(出典) 欧州委員会「欧州の将来に関するユーロバロメーター特別調査」(2017年11月公表)

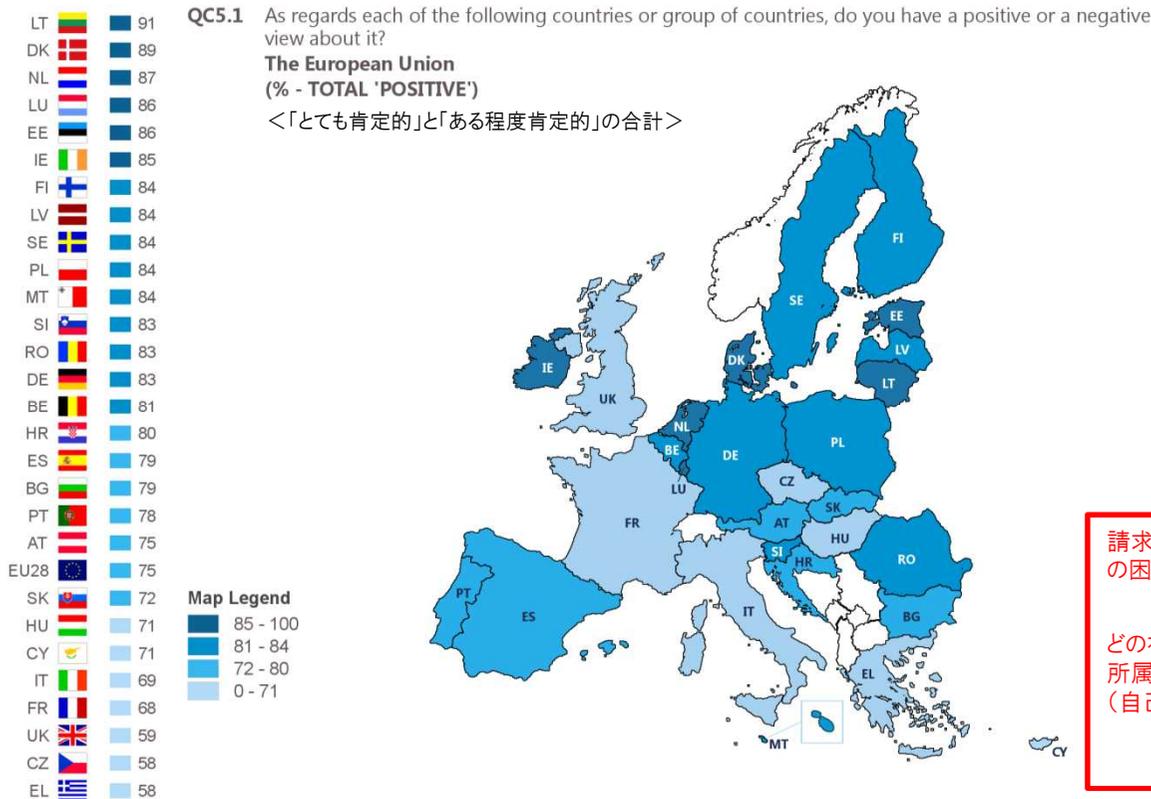
(注) どのような格差を問題視しているかは明らかではない点に留意。

## 4. 格差感③：世論調査（欧州の将来に関するユーロバロメーター特別調査）

○最後に、加盟国ごとのEUに対する肯定感と、格差に関する意識やマクロデータとの関係を見ると、ここでもやはり一定の規則性を見出すことは難しい。

○他方、EUに対する肯定感に関する質問の回答者の属性を見ると、生活に困窮している者ほど、EUには否定的であることが分かる。

<Q. EUに対して肯定的ですか？否定的ですか？>



**QC5.1** As regards each of the following countries or group of countries, do you have a positive or a negative view about it?  
**The European Union (% - EU)**

	Total 'Positive'	Total 'Negative'	Don't know
EU28	75	20	5
<b>Gender</b>			
Man	74	22	4
Woman	75	19	6
<b>Age</b>			
15-24	79	17	4
25-39	79	17	4
40-54	74	21	5
55 +	70	23	7
<b>Education (End of)</b>			
15-	61	29	10
16-19	72	22	6
20+	83	14	3
Still studying	85	11	4
<b>Socio-professional category</b>			
Self-employed	76	21	3
Managers	85	12	3
Other white collars	81	16	3
Manual workers	72	22	6
House persons	67	25	8
Unemployed	68	28	4
Retired	69	24	7
Students	85	11	4
<b>Difficulties paying bills</b>			
Most of the time	60	32	8
From time to time	72	22	6
Almost never/ Never	78	18	4
<b>Consider belonging to</b>			
The working class	65	28	7
The lower middle class	70	25	5
The middle class	80	16	4
The upper middle class	86	12	2
The upper class	85	11	4
<b>Happy living in the EU</b>			
Agree	86	10	4
Disagree	33	62	5

請求書の支払いの困難さ

どの社会階層に所属するか (自己認識)

(出典) 欧州委員会「欧州の将来に関するユーロバロメーター特別調査」(2017年11月公表)